

横浜産貿ホールの COVID-19 感染拡大予防ガイドライン

(一社)横浜市工業会連合会

新型コロナウイルスにおける新しい生活様式にあった展示会を実施する上で、当ホールの感染拡大防止のためのガイドラインは以下のとおりです。

【主催者様(出展者・運営者含)の対応ガイドライン】

1 スタッフの管理

① スタッフの体調管理

体温測定で 37.5℃以上の発熱や体調がすぐれない場合は催事への参加をとりやめる。

② 関係者のマスク常時着用の徹底

2 来客者の管理と事前周知

① 入場時のマスク着用の依頼と事前周知

② 非接触体温計等(サーマルカメラ等)を用いた入場時の体温測定の準備と事前周知

3 密を回避した会場設計

① テーブルや椅子の間隔は最低 1m(できるだけ 2mを目安)以上あけて設計する

② セミナー等でマイクを使った発言者の前は2m以上あける

③ 換気も考慮した密になりにくいレイアウトを設計(風の通りを妨げる高い構造物は止める)

④ 受付等で待機列が予想される場合は間隔の目安表示(最低 1m毎)などを準備する

⑤ 会場の混雑が事前に想定される場合は入場時間制限や事前登録等を検討する

⑥ 受付、レジ前などに飛沫感染防止用のアクリル板やフェイスシールドの着用等を検討

⑦ 受付、休息エリアなどに来客者用の消毒液を準備。飲食する場合エリアを限定する。

⑧ 当日現金のやりとりを少なくするように、事前にキャッシュレス決済の導入などを検討する

4 イベントの段階的な解除期間中の収容人員の目安

収容人員 50%の催事例(大声を出す、歓声・声援、歌うなどのイベントについては下記収容人員の 50%迄)
 なお、緊急事態宣言期間中も下記の 50%迄とする。なお、収容人員は全てのスタッフ人員を含む総数です。

区分	収容人員	区分	収容人員	区分	収容人員
全室 1630 m ²	600 名迄	C室 749 m ²	300 名迄	小展示室	30 名迄
A室 1162 m ²	460 名迄	D室 803 m ²	310 名迄		
B室 390 m ²	150 名迄	E室 78 m ²	30 名迄		

5 会期中の対応

① 入場時の管理(入場者の体調確認、マスク着用や体温測定などの実施)

② 関係者のマスク着用の徹底や手洗い励行などを促す

③ 催事当日は待機列や会場内が密にならないように、入場制限・人員整理を行うこと

④ 高頻度接触部位(タブレット、レジ、テーブル、椅子等)の頻繁な消毒・清掃

⑤ 定期的に会場内の換気を行う(シャッター下 50cm開ける、扇風機による送風等)

- ⑥ セミナー等ではマイクやパソコン、マウス、ポインター等は毎回消毒する

【会場管理者(横浜産貿ホール)の対応】

- ① 非接触体温計(サーマルカメラ)等の貸出備品の準備
- ② テーブル、椅子等の施設・備品を消毒するための消耗品の提供
- ③ 新型コロナウイルスに関する相談窓口等の情報提供
- ④ 来場者にマスク着用・手洗い励行などのポスターを掲示(入口付近)
- ⑤ 主催者様への事前相談や調整、各種情報の提供

以上

横浜産貿ホール 新型コロナウイルス感染拡大防止確認表

以下の内容について、各項目のチェックとご署名の上、本紙を各種関連申請書と一緒に提出をお願いします。

催物名		利用日	月 日 ~ 月 日
主催者団体名		確認者	

確認日 月 日

確認内容	確認欄
スタッフの体調管理を行い、当日 37.5℃以上の発熱や体調がすぐれない場合は催事に参加させない。	
関係者のマスク着用の徹底	
参加者へのマスク着用の事前周知。また参加者がマスクを忘れた場合に備え予備のマスクを準備する。	
発熱がある参加者(来客者)、体調が悪い場合は入場させない。	
テーブルや椅子の間隔を最低 1m以上確保し、通路を含めて密にならない会場設計をする。	
受付等で待機列が予想される場合は間隔の目安表示(1m毎)などを準備する。	
会場内の収容率を超えない(密にならない)ように入場制限や事前予約などを行う。	
受付や休息エリアなどでは手指消毒用アルコール等の準備をする。	
受付やレジ前など多くの人と接する場所は飛沫感染防止用のアクリル板やフェイスシールドの着用等を行う。	
飲食物の提供はエリアを限定し人数も制約、テーブル上に消毒用アルコール等の準備をする。また、客同士の間隔は最低 1m以上空け、真正面の配置は避けるか、アクリル板など設ける。	
高頻度接触部位(タブレット、レジ、テーブル、椅子、パソコン、マイク等)は頻繁に消毒する。	
最低 1 時間に1回は会場内の換気を行う。	
感染拡大防止のため、万一感染者が発生した場合に追跡が行える様に、入場者の把握を行う。(名簿等)	